

人文科学論集
第四十一・四十二輯合併号
一九九六年三月

『山上宗二記』の諸写本の比較 (2)

渡 辺 誠 一

茶湯者之覚悟十駄之事

茶湯者之覚悟十駄之事——茶湯者之覚悟十駄事(表)——茶湯者之覚悟十駄事(東芸大)——茶湯者覚悟十體(古典)——茶湯者覚悟十休(堺博)

一 上ヲソサウニ 下ヲ律儀ニ物ノはツノチカハヌヤウニスヘシ

上ヲソサウニ——上ヲ龜相(古典・堺博)、下ヲ律儀ニ——嗜ニ下ヲ律義ニ(堺博)、物ノはツノチカハヌヤウニスヘシ——信可在(古典・堺博)

一 万事ニ物之嗜并氣遣

万事ニ物之嗜——万事物の嗜(東芸大)——萬事ニ嗜(古典・堺博)、并氣遣——并ニ氣遣(表)、并氣遣専也(東大)——氣遣(古典・堺博)

博)

一 キレイ教寄心ノ中猶以專也

キレイ教寄心ノ中猶以專也——心ノ内ヨリ奇麗教奇(古典・堺博)

一 朝起夜放會ノ朝ハ寅ノ一天ヨリ茶湯仕懸也

朝起夜放會ノ朝ハ——朝起夜放し會朝ハ(表・東博・東芸大)——朝起、夜話會ノ時ハ(古典・堺博)、寅ノ一天ヨリ——寅一天ヨリ

(表・東博・東芸大)——寅上刻ヨリ(古典)——寅乃上刻より(堺博)、茶湯仕懸也——茶湯仕懸候也(東芸大)——茶湯シカクル也(古典)——茶湯仕懸ル(堺博)

一 酒ヲヒカユル事 又姪乱モ同前

酒ヲヒカユル事——酒扣ル事(東博)——酒ヲ過ス事(東大)——酒色慎(古典・堺博)、又姪乱モ同前——又姪乱何停止之事(東大)

一 茶湯ヲ冬春ハ雪ヲ心に昼夜スヘシ 夏秋ハ初夜過迄可然 但月ノ

夜ハ獨成共可及深更

茶湯ヲ——茶湯ハ(東大・古典・堺博)、雪ヲ心に——雪を心にか
け(東博・東大)、夏秋ハ——夏秋(東博)、但月ノ夜ハ——但月の
夜(東博)、獨成共可及深更——獨成共可及深更(表)——獨
ナリトモ深更マテ(古典)——独も深更迄(堺博)

一 第一我ヨリ上ナル仁ト知音スル事專也 人ヲ見知可寄合事肝要
云云

第一我ヨリ上ナル仁ト知音スル事專也——我ヨリ上ナル人ト知音ス
ルナリ(古典・堺博)、可寄合事肝要云々——可寄合事肝要ト云々
(表・東博・東大)——トモナフヘシ(古典)——トオフヘシ(堺博)

一 茶湯ニハ座敷 路地 境地勿論 竹 木 松在所并疊を直布事
此分專也

疊を直布事——疊^{タタミ}を直ニ敷事(表)——疊を真ニ(東芸大)——疊直
敷事(古典)、此分專也——此分專用也(東博)——東芸大・古典・
堺博にナシ

一 善道具ヲ持事 但珠光并引拙 紹鷗 宗易此衆心ニ被懸茶湯道具
專也

善道具ヲ持事——善道具持事(東芸大・堺博)——善道具持之事(古
典)、但珠光并引拙——但、珠光・引拙(古典・堺博)、宗易此衆心
ニ被懸茶湯道具專也——宗易坏ノ心被掛道具也(古典)——宗易杯
心ニ被懸者道具也(堺博)

一 茶湯者ハ無能ナルカ一能也 紹鷗弟子共ニ云 註曰 人間ハ六十
雖定命 其内身之盛成事ハ廿年也 茶湯ニ不断染ル身サヘイツレノ道

ニモ無上手ニ 彼是ニ心ヲ懸ハ悉下手之名ヲ可取 但物ヲ書文字計ハ
可赦云云

紹鷗弟子共ニ云——紹鷗弟子ニ云(東博・東大)——紹鷗ノ弟子ト
モニ云ハレシハ(古典)——紹鷗常に弟子共にいはれしハ(堺博)、

註曰——註ニ曰(表・東博・東大)——古典・堺博にナシ、人間六
十雖定命——人間ハ六十雖定命(表・東芸大)——人間ハ六十雖
立(東博)——人間ハ六十定命ト云トモ(古典)——人間定命六十年

とハいへとも(堺博)、其内身之盛成事ハ廿年也——身ノ盛ナル事
二十年(古典)——身盛事廿年也(堺博)、湯茶ニ不断染ル身サヘイ

ツレノ道ニモ無上手ニ——茶湯ニ不断染ル身サヘ何レノ道ニモ無^ニニ
上手(表・東芸大)——茶湯ニ不断染ル身サヘ何ノ道ニモ無^ニ上手(東

大)——不断茶湯ニ身ヲ染ルサヘ、何ノ道ニモ上手無シ(古典・堺
博)、彼是ニ心ヲ懸ハ悉下手之名ヲ可取——芸ニ心ヲカケハ皆々下

手ナルヘシ(古典)——まして種々の芸に心を懸ハ皆々下手成ヘシ
(堺博)、但物ヲ書文字計ハ可赦云云——但シ物ヲ書文字斗ハ可^レ赦

ト云云——(表)——但、書ト文学ハ心ニカクヘシト云ハレシ也、
(古典)——但、書と文字ハ心^ニかけへしといへり。(堺博)

右十ヶ條取分口傳多之

右十ヶ條——右十ヶ條ニ(表・東芸大・東博)——古典・堺博にナ
シ、口傳多之——口傳多^シ之(表)——多口傳之(東芸大)——口傳
多し(東博)——古典・堺博にナシ

又十鉢之事

又十鉢之事——又十體(古典)——又十休(堺博)

一 目聞 注ニ曰 茶湯之道具之事不及申ニ 目ニテ見程ノ物ヲ善惡ヲ見分 人之詠程之物ヲシラシク数寄ニ入好事專也 目聞ニキラフコトハ ムマキ物ニ似タル物ヲスク目聞ヲ嫌也

目聞——目利(東博)——目明(古典・堺博)、注ニ曰——注ニ云

(表・東博・東大)——古典・堺博にナシ、茶湯之道具之事 不及申

ニ——茶湯ノ道具ハ不及申(東大)——茶湯道具ハ云ニ不及、(古典)

——茶湯の道具ハ云不及、(堺博)、目ニテ見程ノ物ヲ善惡ヲ見分

——目ニテ見程ノ物ヲ善惡ヲ見分(東博)——目ニ見程ノ物ヲ善

惡ヲ見分(東大)——見ルホトノ物善惡ヲ見分ケ(古典)——何にて

も見程の物善惡を見分(堺博)、人之詠程之物ヲ——詠程ノ物を

(東博)——人ノ詠物ヲ(古典・堺博)、シラシク数寄ニ入好事專

也——しほらしく数寄ニ入レ好事專也——(表)——シホラシク数寄

ニ入事專也(東大)——シホラシク数寄ニ入テ始事專一也(古典)

——しほら敷数寄に入テ好事專なり(堺博)、目聞ニキラフコトハ

——目利ニ嫌フハ(古典)——目明に嫌フハ(堺博)、ムマキ物ニ似

タル物ヲスク目聞ヲ嫌也——ムマキ物ニ似タル物ヲスク目聞也(東

大)——ムマキニ似ル物ヲスク目利ヲ嫌フ也(古典)——ムマキニ

似ル物ヲスク目明ヲ嫌也(堺博)

一 手前 薄茶カ專也 是ヲ真ノ茶ト云 世上ニ真ノ茶ト云ハコイ茶ノ事也 是ヲハ手前ヲモ身ヲモクツシテ コイ茶ヲカタマラス様ニイ

キノヌケヌヤウニ立也 其外臺子ノ四ツノ組并ニ小壺肩撞其外在此中

薄茶カ專也——うす茶カセン也(東芸大)——薄茶ヲ建ルカ專一也

(古典)——薄茶点ルカ專也。(堺博)、是ヲ真ノ茶ト云——是ハ真ノ

茶ト云(東博)——是を真ト云(東芸大)——其を真の茶と云(堺

博)、世上ニ真ノ茶ト云ハコイ茶ノ事也——世間ニ真ノ茶ヲ濃茶ト

云ハ非也(古典)——世間ニ真の茶と云ハ濃茶を云ハ非也(堺博)、

是ヲハ手前ヲモ身ヲモクツシテ——濃茶ノ建様ハ手前ニモ身モカマ

ハズ(古典・堺博)、コイ茶ヲカタマラス様ニイキノヌケヌヤウニ

立也——茶ノカタマラスヤウニ、イキノヌケヌヤウニ建ルカ習也

(古典・堺博)、其外臺子四ツノ組并ニ——其外臺子ノ四ツ組并(東

博・東芸大)——其外、臺子四ツ組、并小壺、(古典)——其外台子

四組並(堺博)、其外在此中——此中ニ在リ(古典・堺博)

一 囲爐裏 風爐 灰之事

注ニ曰 炭ノ手不知数ヲ 但シ朝ハ炭ヲナカレテ面白キ様ニ置也 惣

別冬ハ曉寅ノ刻ヨリ茶湯ヲ仕懸也 然ハ日指出ニ爐中面白シ 茶前ニ

ハ湯涌様ニ無味ニ炭ヲ置也 客人帰様ニ手ヲ置也 一日之間ハ炭不取

合 流次第ニラク也 日暮から夜放に更ニ随テ手ヲ置ヘシ 次炭之事

角々ニ手キハラ真ニ入テ ソサウニ見ユルヤウニ灰ヲ入也 猶以口傳

在之

一 囲爐裏 風爐 灰之事——囲爐裏 風爐 炭 灰之事(東芸大・古

典)——囲爐裏 風爐ノ炭之事(東大)、注ニ曰——注曰(東博)——

古典・堺博にナシ、炭ノ手不知数ヲ——古典・堺博にナシ、但シ朝

ハ炭ヲナカレテ面白キ様ニ置也——但朝炭ナカレテ面白キ様ニ置也

(東大)——但シ、朝ハ炭ノカカレテ面白ヤウ置ナリ(古典)——但、

朝ハ炭のなかれて面白様に置也(堺博)、惣別冬ハ曉寅ノ刻ヨリ茶

湯ヲ仕懸也——惣別冬曉寅ノ刻ヨリ茶湯ヲ仕懸ル也(東博)——冬

ハ寅ノ刻ヨリ茶湯ヲシカクル也、(古典・堺博)、然ハ日指出ニ爐中面白シ——然ハ日ノ出ニ爐中面白シ(古典・堺博)、茶前ニハ湯涌様ニ無味ニ炭ヲ置也——茶前ニ湯涌様ニ無味炭ヲ置也(東博)——茶前ニ湯涌様ニ無味ニ炭ヲ置也(東大)——茶前ニハ湯早く涌ヤウニ、無味ニ炭ヲ置也(古典)——茶前にハ湯の早く漏様に、無味に炭を置也。(堺博)、客人婦様ニ手ヲ置也——客人婦様ニハ手置也(東博)——又、客人販リサマニ面白ク置也(古典)——又客人の婦さまに面白置也(堺博)、一日之間ハ炭不取合——一日の間の炭ニ取合ス(東芸大)——日ノ間、炭ニトリアハス(古典・堺博)、日暮から夜放に更ニ随テ手ヲ置ヘシ——日暮夜放更ルニ随テ手ヲ置ベシ(東大)——日暮カラ夜話ニハ、夜ノフクルニシタカツテ面白可置シ、(古典)——日暮から夜話にハ、夜の更るにしたかふておもしろく置ヘシ(堺博)、次灰之事角々ニ手キハヲ真ニ入テ——次ニ灰ノ事角々ニ手キハヲ真ニ入テ(東大)——灰ノ事ハ、スミノ手キハヲ真ニ入テ(古典)——灰の事ハすみノ手キハヲ真に入テ(堺博)、ソサウニ見ユルヤウニ灰ヲ入也——龜相ニ見エル様ニ灰ヲ入ル也(古典)——龜相に見ゆる様に灰を入ルなり(堺博)、猶以口傳在之——口傳在之(東博)——猶口傳在(東大)——猶口傳(東芸大)——口傳(古典)——口伝あり。(堺博)

所作 一花生様 一繪墨蹟之懸卷

一花生様——花ノ生様(古典)、一繪墨蹟之懸卷——繪 墨蹟掛卷(古典・堺博)

臺天目茶様 同數臺万ノ臺

臺天目茶様——臺天目茶吞様(表・堺博)——臺天目ノ立茶様(東大)——臺天目茶ノ吞ヤウ(古典)、同數臺万ノ臺——一同ク數臺万ノ臺(表)——同數ノ臺 萬ノ臺(古典・堺博)

一 ヨイ茶吞様 一 床へ道具上下

一 床へ道具上下——一 床へ道具上ヶ下シ(東大)——一 床へ道具上ヶヲロシ(古典・堺博)

一 小壺 肩撞四方盆戴テ客ニ成テ拝見様子 一 風爐小板釜直居ル様 同囲爐裏ノ内ニ釜釣様 其外手ニテ仕程所作事也

客ニ成テ拝見様子——客ニ成拝見ノ様子(東大)——客人ニ成テ拝見ノ事(古典)——客人に成拝見之事。(堺博)——表はこの項を前項に組み入れている、一 風爐小板釜直居ル様——風爐小板ニ釜ヲ真ニ据ルヤウ(古典)——風呂小板釜真ニ切居ル様(堺博)——表・東芸大・東大・古典・堺博はこの部分を別項にしている、同囲爐裏ノ内ニ釜釣様——同囲爐裡ノ釜釣リヤウ、(古典・堺博)、手ニテ仕程所作事也——手ニテ仕程ノ所作ノ事也(東大)——手ニテスルホドノ所作(古典・堺博)

一 會席之事 色々様々毎度替也 其内正風躰ナルハ日々幾度モ可然其玆行ハ十度ニ一度二度歟 名物持之若仕出之衆ハ三度四度迄モ可赦ス 物ヲ入テソサウニミユル様ニスルカ専也 惣別茶湯ニ作ヲスルト云ハ第一會席又ハ曉客ヲ呼歟 押懸テ行カ 第二道具殿様 扱ハ宮仕ノ珍カ女ヲ仕フ事モ在リ 但シ人仕タル作ヲハ曾以不可似 我カ新作分ヲ仕 貴人呼時ハ何玆キ行可仕云云 紹鷗之時ヨリ此十年先迄ハ金銀ヲチリハメニ之膳三之セン迄アリ

色々様々毎度替也——種々ニ毎度替ル也(古典)——種々毎度替也(堺博)、其内正風鉢ナルハ——其内正風鉢ナレハ(東博・東大)——正風鉢ナルハ(古典)——正風休成ハ(堺博)、其珍行ハ——其内珍行ハ(表)——其内珍行(東芸大)——其内珍行ハ(東博・東大)——珍シキ方術ハ(古典)——珍數方術ハ(堺博)、一度二度歟——一度カ二度カ(古典)——一床歟二床歟(堺博)、名物持之若仕出之衆ハ——名物持若仕出之衆ハ(東博)——名物持ノ若仕出ノ衆ハ(東大)——名物持ニテ若キ仕出ノ衆ハ(古典)——名物持にて若キ仕出之衆ハ(堺博)、三度四度迄モ可赦ス——三度四度モ可赦ス(東博)——三度モ四度モ珍數方術イタス也(古典)——三床も四床も珍數方術致ス也(堺博)、物ヲ入テソサウニミユル様ニスルカ專一也——物ヲ入テ龜相ニ見エルヤウニスルカ專一也(古典)、惣別茶湯ニ作ヲスルト云ハ——総テ茶湯ニ作ヲスルト云ハ(古典・堺博)、第一會席又ハ曉客ヲ呼歟——第一會席又曉客ヲ呼歟(東博)——第一會席、又、曉ニ客ヲ呼カ(古典・堺博)、押懸テ行カ——押懸テ客行歟(東博)——ヲシカケテ来ルカ(古典・堺博)、第二道具殿様——第二ニ道具殿様(表)、扱ハ宮仕ノ珍カ——給仕珍數カ(古典)——給仕珍を數歟(堺博)、女ヲ仕フ事モ在リ——女ヲ仕事モ在(表・東博・東芸大)——女ノ給仕スル事モ在リ(古典・堺博)、但シ人仕タル作ヲハ曾以不可似——但シ人ノ仕タル作ヲハ口曾以不可似ス(表・東大)——但、人ノ作意ヲ以テスヘカラス(古典・堺博)、我カ新可作分ヲ仕——我カ新ク可作分ヲ仕(表・東大)——我新可作分(東芸大)——古典・堺博にナシ、貴人呼時ハ——貴人ヲ呼

時ハ(東大・古典・堺博)、何珍キ行可仕云云——何珍行可仕ト云云(表)——何モ珍キ行可仕ト云云(東芸大)——何ニ珍キ行可仕々々(東博)——何ニ珍數行可仕云云(東大)——珍數キテタテスヘシ(古典)——珍數方便すヘシ(堺博)、紹鷗之時ヨリ此十年先迄ハ——紹鷗時ヨリ此十年先迄ハ(表)——紹鷗時ヨリ此十年先迄ハ(東芸大)——紹鷗ノ時ヨリ十年以前マテハ(古典・堺博)、金銀ヲチリハメニ之膳三之セン迄アリ——金銀ヲチリハメニノ膳(東博)——客人振之事 大方在一座據立ニ——條々密傳多之——一儀為三初心ニ紹鷗被語置也 但當時宗易被嫌候 端々夜放之時珍被申出候 第一朝夕寄合間成共 道具之開又ハ口切之儀ハ不及申ニ 常ノ茶湯成共路地ハハイルカラ立迄 一期ニ一度之參會之様 亭主ヲシツシテ可威也 公事之儀世間之雜談悉無用也

夢庵狂ニ云

我佛隣ノ宝ヲ智舅ト天下ノ軍人ノ善惡

此哥にて可分別 茶湯雜談數寄ニ入タル事ハ可放 兼又茶之立前ハ無言 次ニ亭主振之事客人ヲ底ニハ成ヘキ程シツスルナリ 貴人茶湯之上手ノ事ハ不及申ニ 不斷寄合衆ヲモ名人ノコトク底ニハ可思 將又上ヲハソサウニ可仕 客人呼合專也 道具開ハ一人歟

大方在一座據立ニ——大方在一據立ニ(東大)——在一座ノ建立ニ(古典)——大法有。一座建立に(堺博)、條々密傳多之——條々密傳多之之(表・東芸大)——條々密傳多シ(東博・東大)——條々密傳多也(古典・堺博)、一儀為三初心紹鷗被語置也——一儀為三初心ノ紹鷗被語置者也(表・東芸大・東博・東大)——一義初心ノ為ニ

紹鷗ノ語傳ヘラレタリ (古典・堺博)、但當時容易被嫌候——但シ當時宗易ニ被嫌 (東博)——但、當時宗易嫌ルル也 (古典・堺博)、端々夜放之時珍被申出候——端々夜之時珍ク被申出候 (表・東芸大)——端々夜話ノ時被申出 (東博)——端々夜話之時被申出候 (東大)——端々夜話ノ時云出サレタリ (古典・堺博)、第一朝夕寄合間成共——第一、朝夕寄合間也トモ (博博)、道具之開又ハ口切之儀ハ不及申ニ——道具間又ハ口切儀ハ不及申ニ (東博)——道具モラキ、亦ハ口切ハ不及云ニ、(古典・堺博)、路地ヘハイルカラ立迄——路地ヘ入ヨリ出ルマテ (古典・堺博)、一期ニ一度參會之儀——一期ニ一度之參會之儀ニ (表・東芸大・東大)——一期ニ一度ノ會ノヤウニ、(古典)——一期三度の會の様に (堺博)、亭主ヲシツシテ可威也——亭主ヲしつして可威ト也 (表)——亭主ヲシツメ可威也 (東大)——亭主ヲ可敬畏 (古典)——亭主敬畏スヘシ (堺博)、公事之儀世間之雜談悉無用也——公事之儀又ハ世間ノ雜談悉ク無用也 (東大)——世間雜談無用也 (古典・堺博)、夢庵狂ニ云——夢庵狂哥ニ云 (表・東芸大・東博・東大)——夢庵狂譚 (古典・堺博)、此哥にて可分別——此歌ニテ可心得 (古典・堺博)、茶湯雜談數寄ニ入タル事ハ可放——茶湯事、數寄ニ入タル事可語 (古典)——茶湯の事數寄に入たる事語ヘシ (堺博)、兼又茶之立前ハ無言——兼ハ又茶之立前ハ無言 (表)——一茶ノ建前^{てまへ}ハ無言 (古典)——茶の立前ハ無言 (堺博)、客人ヲ底ニハ成ヘキ程シツスルナリ——客人ヲ底ニハ成ヘキ程しつすヘシ (表・東芸大)——客人ヲ底ニ可成程しつすヘシ (東博)——客人ヲ心底ニ可成程シツスベシ (東大)——心ニ成

程客人ヲ敬ヘシ (古典・堺博)、貴人茶湯之上手——貴人ノ茶湯上手 (古典・堺博)、不斷寄合衆ヲモ——不斷寄合ノ衆成共 (東大)——常ノ參會スル人ヲモ (古典)——常に參會する人をも (堺博)、名人ノコトク底ニハ可思——心ノ底ニハ名人ノ如クニ思ヘシ (古典・堺博)、將又上ヲハソサウニ可仕——將又上ヲハそさうに可仕候 (東博)——將又上ヲハソサウニ可仕ル (東大)——古典・堺博にナシ、客人呼合專也——客人呼合事專也 (東博)——客人ノ組合專一也 (東大)——客人呼合專一也 (古典)、道具開ハ一人歟——道具開ハ一人 (堺博)

一 數寄雜談之事 古人申旧候 名物之判 御茶湯之上左 上手ニ廿ケ年之越可習事

古人申旧候——古人申傳舊キ (古典・堺博)、御茶湯之上左——御茶湯ノ邊 (東大)——御茶ノウワサ (古典・堺博)、上手ニ廿ケ年之越可習事——上手ニ廿ケ年之越シ可習事 (表・東博)——上手ニ廿ケ年之越ヲ可習事 (東芸大)——上手ニ廿年ヲ越可習事 (古典)——上手ニ廿年ヲ越可事、(堺博)

一 茶湯ニハ習骨法普法度第一ニ 數寄之仕樣ト云事在 是密傳也 就上手ニ可談合 但シ此五ヶ條雖ニ悉窮ニ 非作ナラハワカサヤ宗可梅雪同前ニテ可果 茶湯仕樣之儀習ハ古ヲ可用專ニ 作意ハ新キヲ為專 風鉢ハ堪能ノ先達ニ可仕ト也 其節々ノ時代ニ相樣ニ可分別 普法度第一ニ——普法度第一 (東大・古典・堺博)、數寄之仕樣——數寄仕樣 (東芸大・古典)、是密傳也——蜜傳也 (古典・堺博)、就上手ニ可談合——就上手ニ可ニシ談合ニ (表)——上手ニ付テ可聞

(古典)——上手に付可聞(堺博)、但此五ヶ條雖ニ悉窮——但、

此五ヶ條ハ悉窮ルト云トモ(古典・堺博)、ワカサヤ宗可——若校屋宗可(東大)、茶湯仕様之儀習ハ——茶湯ノシヤウ習ハ(古典)

——茶湯仕様の習ハ(堺博)、作意ハ新キヲ為專——作意ハ新キヲ為專ト(表・東博・古典・堺博)——作意ハ新キヲ為專ト(表・東博・古典・堺博)——作意ハ新キヲ為專ト(東芸大)

——作意ハ新キヲ專ト(東大)、風躰ハ堪能ノ先達ニ可仕ト也——

風體堪能ノ先達ニ習ヘシ(古典)——風體ハ堪能ノ先達ニ習フヘシ

(堺博)、其節々ノ時代ニ相様ニ可分別——其節々ノ時代ニ相様ニ可分別云々(表・東芸大)——其節ノ時代ニ相様ニ可分別(東博・東大)——其時代ニ逢ヤウニ思案スヘシ、(古典・堺博)

——茶湯之師匠ニ別テ後 師匠ニ用ル覚悟 一切ノ上 佛法 歌道并

能 乱舞 刀上古又下々ノ所作迄モ 名人之仕事ヲ茶湯ト目聞ト二ヶ

条之手本ニ取也 茶湯師匠ニ成覚悟 茶湯卅年抛身ヲ 我茶湯ヲ香茶湯之儀 坊主ヲセマシキトテ逼塞スル目聞ヲハ自天下カラ呼出す也

又我茶湯ヲハ取乱 天下へ出坊主顔スル者ハ 梅雪同前也 茶湯座布ニ居様 右ニ注ス 猶以口傳在之

茶湯之師匠ニ別テ後——茶湯之師匠ニ別テ後迄ニ(東大)——茶湯ノ師ニ別テ後(古典・堺博)、師匠ニ用ル覚悟——用ル覚悟(東大)

——師ニ用ル覚悟ハ(古典・堺博)、刀上古又下々ノ所作迄モ——刀ノ上左又下々ノ所作迄モ(表・東博・東大)——刀ト上左又下々

所作迄モ(東芸大)——刀ノ上、尤又、下々ノ所作マテモ(古典・堺博)、名人仕事ヲ茶湯ト目聞ト二ヶ条之手本ニ取也——名人ノ仕

事ヲ茶湯ト目明ノ手本ニスル也(古典・堺博)、茶湯師匠ニ成覚悟

——茶湯ノ師匠になる覚悟(表・東芸大・東大)——茶湯ノ師ナル

覚悟ハ(古典)——茶湯の師に成覚悟ハ(堺博)、茶湯卅年抛身ヲ——茶湯卅年抛身ヲ(表)——茶湯卅年抛身ヲ(東大)——茶湯ニ

三十年身ヲ抛(古典・堺博)、我茶湯ヲ香茶湯之儀——我茶湯香ミ茶湯之儀(東大)、目聞ヲハ——目聞ヲ(東大)、自天下カラ呼出す也——從天下ニ呼出す也(東大)——ヲノツカラ天下ヨリ呼出す

也、(古典)——己つから天下よく呼出す也(堺博)、又我茶湯ヲハ

取乱——又我茶湯ヲ取乱(東芸大・東大)——我茶湯ヲ取乱シテ(古典・堺博)、天下へ出——天下一出テ(古典)——天下へ出て(堺

博)、坊主顔スル者ハ——師匠顔スル者ハ(東大)、茶湯座布ニ居様

右ニ注ス——茶湯座敷居ヤウハ、右ニ記(古典・堺博)——東博・東大にナシ、猶以口傳在之——猶口傳重々(表)——猶以十鉢共ニ

重々在口傳之(東芸大)——猶口傳在リ(古典)——猶口伝(堺博)以上右十鉢是也 十鉢共ニ口傳アリ

孔子曰 此語ヲ紹鷗 道陳 容易密傳在之

以上右十鉢是也——古典・堺博にナシ、十鉢共ニ口傳アリ——十鉢共ニ有密傳(表)——十鉢共密傳在(東博)——何モ密傳在(東大)——以上十體トモ密傳在(古典)——以上十体トモ密傳有(堺

博)、孔子曰 此語ヲ紹鷗 道陳 宗易密傳在之——孔子ノ曰 右此語ヲ紹鷗 道陳 宗易密傳也(東芸大)——東大にナシ、尚、表

は「孔子ノ曰」を次項の冒頭に置き、古典・堺博は「此語紹鷗・道陣・宗易之密伝ニ有」を「論語」の句の終りに入れている。

——為二十五 初学 卅而立名 四十而不迷 五十而知天命 六十而

隨耳 七十而從^レ發^レ心處^ニ不越法^ヲ注^ニ曰 茶湯仕樣十五カラ卅迄ハ
 万事ヲ任^ニ坊主^ニ也 三十四迄ハ出^ニ我分別^ニ習骨法普法度 教寄雜談
 ハ坊主之傳ヲ仕 作分教寄仕樣ハ主次第也 但十ノ物五ツ我ヲ可出
 是四十而道^ニ不迷云事也 五十迄十年ハ坊主ト西^ヲ東ト違^テスル也
 其内ニ我流出^テ上手ノ名取ヲスル也 一段茶湯ヲ若クスル也 又十年
 六十迄ハ坊主コトク一器ノ水ヲ一器ニ移^ス樣師スル也 隨耳トハ右ノ
 十ヶ條目如書注候 万ツノ名人之所作ヲ手本ニスル也 七十ニ而從^レ發^レ
 心處^ニ不越法^ヲ云ハ 宗易之今茶湯之風魅也 名人一人之外ハ無用ト云々
 年六十八歳ニ相当之儀也 紹鸕ハ五十四ニテ遠行 此外色々在口伝
 為^ニ二十五^ニ初学^ニ 為^ニ十五志学^ニ (表) 吾十在五而志学云々 (古典
 尚古典はこれ以後の論語の句を省略) 吾十有五而志学 (堺博)、
 注^ニ曰 古典・堺博にナシ、茶湯仕樣 古典・堺博にナシ、任^ニ
 坊主^ニ也 任^ニ師匠^ニ (東大) 任^ニシ坊主^ニ (東芸大) 師ニマ
 カスル也 (古典・堺博)、三十四迄ハ 三十カラ四十迄ハ (表)
 卅カラ四十迄 (東芸大) 卅四十ヨリ (東大) 三十ヨリ四
 十一マテハ (古典) 卅ヨリ四十迄ハ (堺博)、教寄雜談ハ坊主之
 傳ヲ仕 教寄ノ雜談ハ坊主ノ傳ヲ仕 (東博) 教寄ノ雜談師匠
 ノ傳ヲ仕リ (東大) 教寄雜談ハ心次第ナリ、(古典・堺博)、作
 分教寄仕樣ハ主次第也 古典・堺博にナシ、五ツ我ヲ可出 五
 我ヲ可出 (東芸大・古典・堺博) 五ツ我流ヲ可出 (東大)、是四十
 而道^ニ不迷云事也 是ヲ四十ニ而メ道^ニ不迷ト云事也 (表)
 是ヲ四十ニ而道^ニ不迷云事也 (東博・東芸大・東大) 古典・堺博
 にナシ、五十迄十年ハ 五十ニテ十年ハ (東博) 四十ヨリ五十

マテ十年ノ間ハ（古典・堺博）、坊主ト——師匠ト（東大）——師ト（古典・堺博）、其内ニ我流出テ上手ノ名取ヲスル也——其内ニ我レリウ出テ上手ノ名取ヲスル也——（表・東芸大）——其内我レ流出テ上手ノ名取スル也（東博）——其内我流ヲ出シテ上手ノ名ヲトル也（古典）——其内我流出シテ上手ノ名トル也（堺博）、一段茶湯ヲ若クスル也——一段茶湯ヲ善クスル也（東大）——茶湯ヲワカクスル也、（古典・堺博）、又十年六十迄ハ——又、五十ヨリ六十マテ十年ノ間ハ（古典・堺博）、坊主コトク——坊主ノコトク（表・東芸大・東博）——師匠ノコトク（東大）——師ノコトク（古典）——師ノ如クニ（堺博）、一器ノ水ヲ一器ニ移ス様師スル也——一器ノ水ヲ一器ニ移ス様ニ如師スル也（表・東芸大）——一器ノ水ニ移ス様必師トスル也（東博）——一器ノ水ヲ一器ニ移ス様ニ必師ヲスルナリ（東大）——一器ノ水一器ニ移スヨウニスル也（古典）——一器ノ水ヲ一器ニ移ス様ニスル也（堺博）、随耳トハ右ノ十ヶ條目如書注候——随耳トハ右ノ十ヶ條目ニ如ニ書キ注シ候——（表・東芸大）——随耳トハ右ノ十ヶ條目ニ如ニ書注スル（東大）——古典・堺博にナシ、万ツノ名人之所作ヲ手本ニスル也——万ツ名人ノ所作ヲ手本ニスル也（東博）——名人ノ所作ヲ萬手本ニスル也（古典・堺博）、七十ニ而從発心處不越法云ハ——七十ニ而從發心ノ處ニ不越矩ト云（東大）——七十而テ（古典）——七十し（堺博）、宗易之今茶湯之風脉也——宗易今ノ茶湯ノ風脉也（東大）——宗易ノ今ノ茶湯ノ風體（古典）——宗易ノ今ノ茶湯風体（堺博）、名人一人之外ハ無用ト云々——名人之外ハ無用ト云（東博）——名人ノ外ハ無用也（古典）

——名人外ハ無用也（堺博）、年六十八歳ニ相当之儀也——年六十八旁 相当之義也（東大）——六十八歳ニ相当ノ儀也（古典）——年六十八方々相当ノ義也（堺博）、紹鷗ハ五十四ニテ遠行——紹鷗ハ五十四ニテ遠行也（東大）——紹鷗ハ五十四ニテ死去（古典・堺博）、此外条々在口傳——此外条々在口傳之（東芸大・東大）

一 茶湯ハ禪宗ヨリ出タルニ依テ僧行ヲ專ニス 珠光 紹鷗悉禪宗也 在密傳 一 宮仕之事 大名歟又ハ唐物持ハ兒之様ニ髪ヲ曲タル子ヲ

袴ハカリキセテツカフ 又喝食此二人ヲ用ユ 武士若衆不遣 次ニ十二三ナル沙彌ヲ宮仕ニ遣フ 是ハ貴人凡人下々迄誰ニモ似相候 是從

坊主之傳也 此来宗易被申候ハ二疊半持程ノ佗数寄ハ亭主ノ宮仕可然

僧行ヲ專ニス——僧ノ行ヲ專ニスル也、（古典・堺博）——東大には

この項から「凡古今茶湯ノ名人……」までナシ、珠光、紹鷗悉禪宗

也——珠光・紹鷗、皆禪宗也（古典・堺博）、在密傳——古典・堺

博にナシ、一 宮仕之事——尊經以外は項を改めている、大名歟又

ハ唐物持ハ——大名唐物持ハ（東博）——大名カ、又ハ唐物名物所

持ノ人ハ（古典）——大名歟、唐物所持ノ人ハ（堺博）、兒之様ニ髪

ヲ曲タル子ヲ袴ハカリキセテツカフ——兒ノヤウニ髪ヲワケタル子

ニ袴計ヲ着テツカウ（古典）——兒ノヤウニカミヲ曲タル子ニ袴計

ヲ着セテツカウ（堺博）、又喝食此二人ヲ用ユ——人喝食此二人ヲ

用ニ（東博）——喝食モ用ユル也（古典）——又喝食モ用ユル也（堺

博）、武士若衆不遣——武士若衆ハ不遣（表・東芸大・堺博）——武

士ハ若衆ハツカハズ（古典）、次ニ十二三ナル沙彌ヲ宮仕ニ遣フ——

十二三ナル沙彌ヲモツカフ也（古典・堺博）、是ハ貴人凡人下々迄

誰ニモ似相候——是ハ貴人下々迄、誰ニモ似合タリ（古典）——其

ハ貴人下々迄誰ニモ似合タリ（堺博）、是從坊主之傳也——古典・

堺博にナシ、此来宗易被申候ハ——此来宗易ノ云ハレシハ（古典

・堺博）、二疊半持程ノ佗数寄ハ亭主ノ宮仕可然——二疊半是持程

ノ佗数寄ハ亭主ノ宮仕可然（東博）——貳疊程ノ佗茶湯ハ給仕可然

也（古典）——二疊半程ノ佗茶湯ハ亭主給仕可然ト也（堺博）

凡古今茶湯者雖三口之席ニ注ニ未細ニ念ヲ入ト云也

これより「右此座敷紹鷗ノ移也……」まで、岩屋寺宛本・江雪斎宛

本・皆川山城守宛本が、それぞれ違った記述をしているので、〈表と

東芸大〉、〈古典と堺博〉、〈尊經と東博と東大〉と三ツのグループに別

けて記す。

〈表と東芸大〉

凡古今茶湯ノ名人ノ名 大方注シ侍リ畢（凡古今ノ茶湯ノ名人

名 大形注ニ侍リ畢「東芸大」

曹光院御代 慈照院東山殿御代 同

每阿弥 能阿弥 藝阿弥（同「東芸大にナシ」）相阿弥 右

四人代々ノ公方様之（「之」東芸大にナシ）御同朋也 御繪ノ外題此

衆也 但能阿弥名人也 忠昌藏主天下一之手書也 此仁能阿弥好ニ付

而菓子 繪始テ名軸悉ク外題多シ之

奈良曼明寺 山名殿年寄衆 公方御藏 京千本 京栗口

一 珠光 松本珠報 篠香爐家 道提 善法 カンナヘ一ツニテ一世

ノ間食ヲモ茶湯ヲスル也 身上楽ム 胸ノキレイナル者トテ珠光褒美

和州 候 古市幡州 数寄名人 珠光ノ一ノ弟子 名物其数所持ノ人也 西

都 珠光跡目 下京 京大富 福院 宗珠 宗語 善好 引拙 名人 名物其数多シ 藤田宗理 目

聞也 紹鷗始ノ(紹鷗ハ始ノ)東芸大)坊主 宗宅 珠光弟子 紹鷗
藏屋 堺武野 堺北岡 堺ムクノ
 滴 花ノ上手 紹鷗 名人 名物六十程在 道陳 目聞 宗里 コヒ
堺津田
 タル覚悟一世ノ間持人也 宗達 臺子ノ敵一世ノ楽人(敵リ一世楽人)東芸大)実休 名物其数おほし 此外数寄者も多クあるへし
三好豊州
 一 古人之曰 茶湯名人ニ成ての果ハ 道具一種サへ楽ハ弥佗数寄カ
 専也 心敬法師連歌之語ニ曰 連歌之仕様ハ枯かしけ寒かれと云 此
 語ヲ紹鷗茶湯ノ果ハ如此有度物をなと 常ニ被ル申之よし 辻玄哉語
 傳ヘ候 但シ茶湯ハ風躰年ノ珎クかはるへきの条 其時ノ先達ニ可
 習者也
 一 此玄哉ハ(ハ)東芸大にナシ)紹鷗一ノ弟子 小壺大事一人ニ
 相伝也 但目モ不聞 茶湯モ天下無双ノ下手 上手ノ弟子ニ成テモ非
 作者ハ此分也
 一 先年茶湯拙子ニ御談合之刻 此道之奥之奥ヲ雖トモ御尋候ト 相伝
 ノ秘事ヲハ残シ候畢 今度高野罷出候節 当安養院并成就院色々就テ
 (テ)東芸大にナシ)懇望ニ廿年之稽古ヲ漸(漸ク)東芸大)三百
 日ニ令ニ指南ニ師ヨリ被ル申渡ニ通(被申渡通)東芸大)一卷ニ仕兩人
 (ハ)東芸大にナシ)渡候 然者 宗程様御数寄道御執心之由粗
 承候間 此一卷進上候 惣別茶湯ニハ昔ヨリ以来無ニ書物ハ 唯古唐物ヲ
 多ク見テ上手之茶湯者与節々為ニ参会ニ作分出シ 昼夜茶湯ニ数寄覚語
 之師匠也 此書物者為ニ初心ソニハ重宝之第一也 為ニ数寄者ニハ不入
 者歟 古語ニ曰 修多羅教刺月指 文字之言句敲門瓦子(然者……
 敲門瓦子)まで東芸大ハ「次ニ貴所之儀も就御懇望 此一卷進上候」

又当世入事ヲ拙子以分別書加候畢

一 此一卷事坊主ヨリ請取申候者 今度之身上乱候時失申候(失申
 候間)東芸大) 俄書立申候間(書立 間)東芸大) 当字耳候
 ハント存知候 於其方御直尤候 未我之存分書加候也(未……候也)
 東芸大にナシ)
 一 茶湯者朝夕可唱語
 一 志 二堪忍 三器用 右口伝者 去年院主ヘ申渡候也(右口
 伝者如前申渡候)東芸大)
 一 紹鷗ハ卅年ノ迄連歌師ニ候 三條逍遙院殿ニ詠哥大概之序ヲ聞
 即茶湯ヲ為ニ分別ニ名人ニ被成也(名人ニ成也)東芸大) 扱後ニ
 是ヲ密傳ニス 弟子之印可仕程ノ仁ヘ被仰傳候也
 一 道陳 宗易ハ禅法ヲ(ヲ)東芸大にナシ) 為眼ニ 古即氣之上
 フ楽ミ是ヲ数寄之師匠ニス 拙子式モ右三老之蹟ヲ続也 上手ニ及テ
 ハ如ニ右ニ注ス名人所作ヲ為師匠ニ(如右注名人所作ヲ為師匠)東芸大)
 一 此書立候名物不レ寄ニ代物上下ニ茶湯方ヘ数寄ニ入頂上之名物斗ヲ
 書乗候也 右ノ外ニ何之道具之内ニモ名物ニ増程成物天下ニ可有数多
 ト云々 密伝ニ在(密伝ニ在之)東芸大)
 (古典と東博)
 茶湯者之傳
 一 能阿彌ハ御同朋衆ノ内ノ名人 (義政公之御同朋能阿弥ハ名人
 也)堺博) 御物ノ御繪ノ外題ヲ書シ人ナリ、忠昌藏主手書成故、能阿
 彌サシズニテ、菓子ノ御繪ノ外題ヲ始テ書シ也、名軸ノ外題多シ、
 一 珠光開山

- 一 松本珠報ハ瓢箪ノ茶入、茶碗、兩種ヲタノシム、篠ハ公方ノ御蔵本ナリ、スルキ道具数多、番爐ノ家也、(堺博は「篠ハ……」から「志野ハ……」と別項にしている)
- 一 京千本道提ハ四十石ノ名壺一種、
- 一 京栗田口ノ善法 間鍋一ツニテ、一世ノ間、(「カンナハ」一世ノ間「堺博」食ヲモ茶ヲモスル也、此善法カタノシミ、胸中ノ奇麗ナル者トテ、珠光褒美セラレタリ、(「珠光褒美セシ也」堺博)
- 一 和州南都古市播州ハ珠光ノ弟子也、数奇者、名人ナリ、其数三十色計所持ス、
- 一 同尊行院 珠光ノ弟子、小茄子、石菖蒲繪所持、(堺博は次項と順序逆)
- 一 同興福寺(「南都興福寺」堺博)ノ西福院、三ヶ月所持
- 一 宗珠ハ珠光ノ遺蹟也、珠光ノ一蹟ヲ譲ル、圓悟墨蹟、松花ノ大壺、拋頭巾肩衝、
- 一 下京宗悟、茶湯スキタル人也、但、目キカヌナリ、小道具数多所持、(「数多有」堺博)善キ道具無、
- 一 京大富善好ハ宗易香爐・松本茶碗名物兩種所持ス、マタ、カウチ茶碗在リ、
- 一 引拙ハ名人也、茄子ナラシハ、其外卅色計所持ス、(「所持」堺博)
- 一 下京藤田宗理目利也、(「目明也」堺博)紹鷗始ノ坊主、名物ハ鶴聲一種所持ス、(「所持」堺博)
- 一 堺菅田屋宗宅ハ珠光弟子也、松本所持宗及文琳一種、
- 一 堺竹藏屋紹滴ハ名人也、貨狄ノ船一種也、花ノ名人也、
- 一 堺武野紹鷗名人也、名物ノ道具六十種所持ス、
- 一 堺北向道陳ハ目利、(「目明也」堺博)松花、虚堂、キノハ肩衝、善好茶碗所持ス、(「茶碗所持ス」堺博にナシ)
- 一 堺ムクノ宗里ハ(「ハ」堺博にナシ)一世タケタル人也、古木一種所持ス、
- 一 堺津田宗達ハ臺子ノ莊リ(「敵ヲ」堺博)一世楽、名物卅種所持ス、(「所持」堺博)
- 一 豊州三好實休ハ名物小茄子・三ヶ月ヲ初テ、其外五十種程名物所持ス、(「所持ノ人也」堺博)實休(「但、實休ハ」堺博)阿波・河内両国ノ主也、(「両国主也」堺博)右之外、名物所持ノ人モ数奇者モ京堺ニ数多在之、實休ハ武士ニテ数奇者也、
- 一 古人ノ云、茶湯名人ニ成テ後ハ、佗数奇スルカ專一也、(「專也」堺博)心敬法師連歌ノ語曰、連歌ハ枯カシケテ寒カレト云、茶湯ノ果モ其如ク成タキト紹鷗常ニ云ト、(「常々云シト」堺博)辻玄哉云レシト也、但、茶湯風體年々珍敷クカハルヘシ、先達ニ可習也、
- 一 辻玄哉ハ紹鷗ノ一ノ弟子、(「一弟子」堺博)小壺ノ大事マテ一人相伝也、(「一人ニ相伝也」堺博)但、目モキカス、茶湯モ天下一ノ下手也、上手ノ弟子ニ成テモ不作意ノ人ハ下手也、
- 右一卷、珠光一紙目録、紹鷗追加等書頭次ニ、予所見聞事粗相來載之畢、
- 師ニ問置密伝ヲ拙子注之條々
- 一 御茶湯者朝夕唱語 一志 一堪忍 三器(「三器用」堺博)
- 一 紹鷗(「紹鷗ハ」堺博)卅年マテ連歌師也、三條逍遙院殿詠哥大

概之序ヲ聞、茶湯ヲ分別シ、名人ニナラレタリ、是ヲ密伝ニス、印可ノ弟子傳ルラルム也、

一 道陳 (「道陣」堺博)・宗易ハ禅法ヲ眼トス、古即諸録ヲタノシム、

三老ノ蹟贖也、(「蹟統也」堺博) 上手ニ及テハ名人ノ所作ヲ師トス、

一 此名物ノ書付ハ代物高下ニ不依、茶湯方数奇ニ入ル、頂上ノ名物計書記ル也、(「書印ス也」堺博)

右之外ニ名物 (「名物ニ」堺博) 増程ノ道具 (「マス程成道具ハ」堺博) 何程モ可在、(「何ホトモ有ヘシト云々」堺博) 密傳也、

紹鷗四疊半左勝手 (堺博は左記の四項目の後にこの条を記す) 図面が記されているが、紙面の都合で、諸写本の図面は最後に纏めて記載する。

一 紹鷗ハ五十四ニテ遠行、茶湯ハ正風體盛リニ死去也、物ニタトヘハ、吉野ノ花盛ヲ過テ、夏モ過、秋ノ月、紅葉ニ似リ、

一 引拙ハ十月時雨ノ比ノ木葉乱ルムニ似リ、七十ニテ死去、珠光ハ八十二ニテ逝去ス、(「死去ス」堺博) 雪ノ山カ、

右三人、行ハ (「右三人ノ行ハ」堺博) 種々替ル、皆面白シ、

一 宗易茶湯モ早冬木也、(「茶湯モ冬木也」堺博) 平人ハ無用也、次

ニ師ヨリ請取ノ一卷、并三十年ニ及テ聴聞 (「聞所」堺博) ノ覚書、

(「覚書ハ」堺博) 今度ノ (「ノ」東芸大にナシ) 一乱ニ失ホトニ、俄

ニ愚案ヲ以テ書記條、文字誤在之歟 (「文字誤有シ歟」堺博)

一 繪讀、墨蹟ノ語、(「悟」堺博) 圓悟 虛堂、無準、其外、皆別紙

ニ写、

〈尊經と東博と東大〉

一 御同朋衆之内能阿弥名人也 并悉御繪之外題仕仁ナリ 其内能阿弥以異見 忠昌藏主天下一之手書ナル故 菓子ノ絵ヲ始テ名軸外題多之 (以上東大にナシ)

一 珠光開山 松本珠報瓢箪ノ茶入茶碗兩種樂 (「兩種ヲ樂」東大)

篠公方之御藏也 (「御藏」東大) ヌルキ道具数多 (「数」東大) 香

爐ノ家也 (「香爐ノ舎也」東博、一「香爐也」東大)

十石ノ壺ヲ一種ニスル (東博・東大は別項にしている) 善法 かん

ナヘ一ツニテ一世、ノ間茶湯ヲモスル也 (「京栗田口カンナヘ一ツニ

テ一世ノ間食ヲモ茶湯スル身上也」東博、一「京栗田口善法 間鍋一ツ

ニテ一世ノ間食ヲモ茶湯ヲモメ ヲ」東大) 身上樂ム胸ノキレイ

ナル者トテ珠光褒美 (東博はこの部分を「一 善法樂ム胸ノキレイナ

ル者トテ珠光褒美也」と別項にしている。)

和州南都ノ南 古市幡州 (和州南都古市幡州) 東博、一「古市幡州 和州南都」東大

数寄者之名人也 (「数寄者名人也」東博・東大) 珠光一之弟子 (「弟

子也」東博・東大) 名物其数卅色斗所持ノ人也 (「其数三十所持也」

東博、一「数卅斗所持ノ人ナリ」東大)

南都興福寺 西福院 三ヶ月所持 善行院 (「同寺尊許院」東博、東大は項を

改めて) 小茄子 石菖絵 (「夕照ノ繪所持」東大) 珠光弟子 (「珠光

ノ弟子」東博、一「珠光弟子也」東大)

珠光蹟目一跡ヲユツル 宗珠 圓悟墨蹟 松花大壺 ナケツキンノ肩撞

下京 宗語 茶湯教寄タル者也 但目ノ聞ヌ仁也 小道具アマタアリ 何

モ益ニ不立トナリ (「小道具……不立トナリ」東大にナシ)

京大富

善好 宗易香爐 松本茶碗兩種所持 又コウチウ茶碗 (「又コウチ

ウ茶碗持」東博、「コウチウ茶碗モ在」東大

引拙 名人也（「名人也」東大にナシ） 茄子ナラシハ其外卅色斗

所持（二十色斗所持」東博） 目聞也

下京

藤田宗理（「下京人」東博、「下京仁」東大） 龜ノ一聲一種也（「一

種所持」東大） 目聞也 紹鷗始之坊主也

堺金田屋

宗宅 珠光弟子 宗及文林一種 松本所持（「宗及文林 松本茶碗

所持」東大）

堺竹藏ヤ

紹鷗 クワテキノ舟一種 花ノ名人（「舟一種所持 花ノ名人也」

東大） 紹鷗 名人（「名人也」東大、尚東博・東大は項を改めて

いる）名物六十色斗所持也（六十色所持也」東博・東大） 「日利」

（東博のみ）

堺北岡

道陳 目聞也 松花 虛堂 キノへ肩撞 善好茶碗（「茶碗持」東

博、「茶碗所持」東大）

堺ムクノ

宗里 一世タケタル人也（「名人也」東大） 古木一種ニ持（「古木

一種持也」東博、「古木ノ繪一種ニ持也」東大）

堺津田

宗達 臺子ノ敵一世樂人也 名物卅色ノ上アリ（三十色持也」東

博）

三好豊州

實休 名物小茄子 三ヶ月ヲ始テ五十色程所持（五十色モ所持」

東博） 阿波河内両國之主 此外名物持モ数寄者モ京堺ニ多カルヘ

シ（多クアルヘシ 武士ニテノ数寄者也 先大形也」東博）

一 古人之曰 茶湯名人ニ成テ之果ハ 道具一種サヘ樂ハ弥侘数寄カ

專也 心敬法師連歌之語ニ曰（語ニハ」東大） 連歌之仕様ハ枯カ

シケ寒カレト云 此語ヲ紹鷗茶湯果ハ如此有度物をなと常ニ被申之由
辻玄哉語傳候 但茶湯ハ（「茶湯ノ」東博） 風躰年々珍カハルヘキノ
条 其時ノ先達ニ可習者也

一 此玄哉ハ紹鷗一之弟子 小壺大事迄一人ニ相伝也（「相伝候也」
東博） 但目不聞 茶湯モ天下無双ノ下手也（天下無双ノ」東大）

上手ノ弟子成テモ（弟子ニ成ても」東博・東大） 非作者ハ此分也
（非作者也」東大）

一 右一卷（「一卷」東博） 是迄ハ珠光一紙目錄 紹鷗ノ追加等書顯
畢 此奥ハ坊主ニ間置候密傳 拙子為今案私物ニ又注者也（拙者為
今案 私物又注者也」東博、「拙者為今案私ニ又注者也」東大）

一 御茶湯者朝夕可唱語

一 志 二堪忍 三器用 右口傳有多也

一 紹鷗ハ卅年迄連歌師ニ候 三條道遙院殿詠哥大概之序ヲ聞 即茶
湯ヲ為分別 名人ニ被成候也（分別メ名人ト被成候也」東大） 扱

後ハ足ヲ密傳ニス（扱後ニ是ヲ密傳ニ」東博） 弟子之印可仕程ノ

仁ハ被仰傳候也（仁ハ被仰 也」東博、「仁被仰傳者也」東大）

一 道陳 宗易ハ禪法ヲ為眼（禪法ヲ守眼トス」東大） 古即諸録樂

（古即銀樂ム」東博） 三老之蹟続也 上手ニ及テハ如右注ス 名人

所作ヲ為師匠ニ（「為匠ト」東大）

一 此書立候名物（此一書ニ候名物」東大） 不寄代物上下（「不寄物
代物上下」東大） 茶湯方（数寄ニ入（入ル」東博・東大） 頂上之

名物斗ヲ書乘也 右之外（外ニ」東博・東大） 何モ道具之内ニモ名

物ニ増程成物天下ニ可有数多ト云々 密傳ニ在(「密傳ニ在之」東博・東大)

一 紹鷗ハ五十四而遠行 茶湯ハ正風鉢之盛ニ死去ナリ 物ニタトウレハ吉野ノ花ノ盛ヲ過テ夏ニ越シ(「夏ニ越シ」東博) 秋ノ月 紅葉ニ似タリ

一 引拙ハ(「引拙」東大) 十月時雨ノ比 木葉乱ル時節ニ似リ 七十一而遠行 珠光(「珠光ハ」東大) 八十ニテ遠行 右三人之行色々ニ替ト云々 何モ面白シ(「但何モ面白シ」東博・東大) 雪山(「雪山カ」東博・東大)

一 宗易茶湯モ早冬木也 平人ニハ(東博には「平人」ナシ、尚東大にはこの項ナシ) 無用也 次ニ(「次」東博) 師ヨリ請取候一卷并及卅年聴聞ノ覚書今度ノ一乱ニ失候 俄ニ加愚案書改(「俄ニ加愚安書メ改レ」東博) 之条当字耳候ワンカ(「条当字耳候ハンカト」東博) 一 繪之讚(「繪讚」東博) 別紙ニ写留候 墨蹟之語ハ(「墨蹟語ノ」東博) 圓悟 虛堂 無準其外ノ語共又別紙ニ写置候

座敷之指図

紹鷗四疊半左カツテ

図面(1)

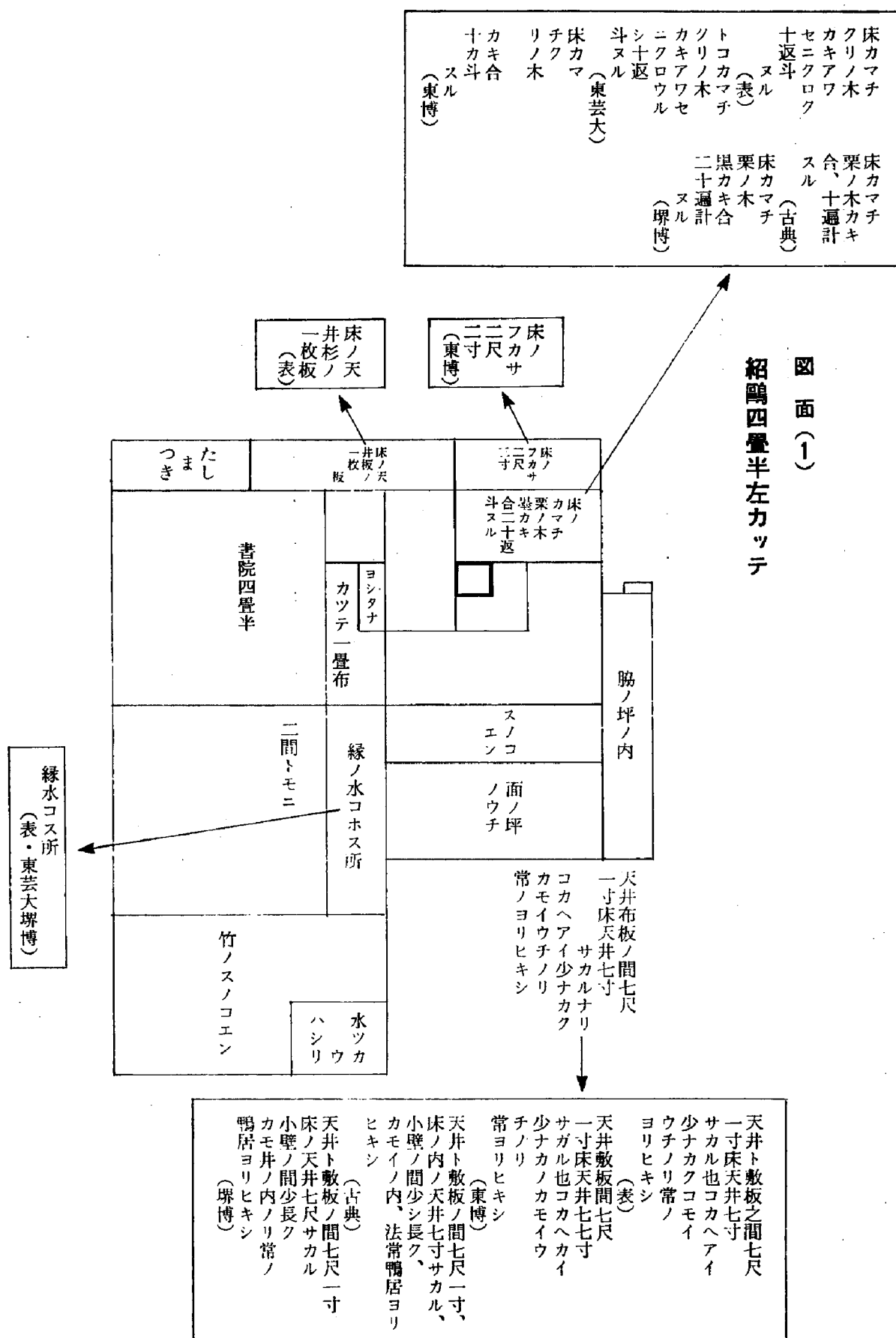
右此座布紹鷗ノ移也 但北向坪ノ内又ハ見越ニ松大小数多シ 天井ノ子板 柱絵 真ノハリツケ 黒フチ有 カツテフスマ障子横引テ 書院二間共ニ四疊半也 其後宗久 宗易 宗瓦 宗及 拙子式迄仕候 此外ノ唐物持チ京堺悉ク是ヲ移ス 又珠光カ、リハ北向ニ右カツテ坪ノ内ニ大ナル柳一本在 後ニ松原廣 松風斗聞 引拙ハ南向右勝手

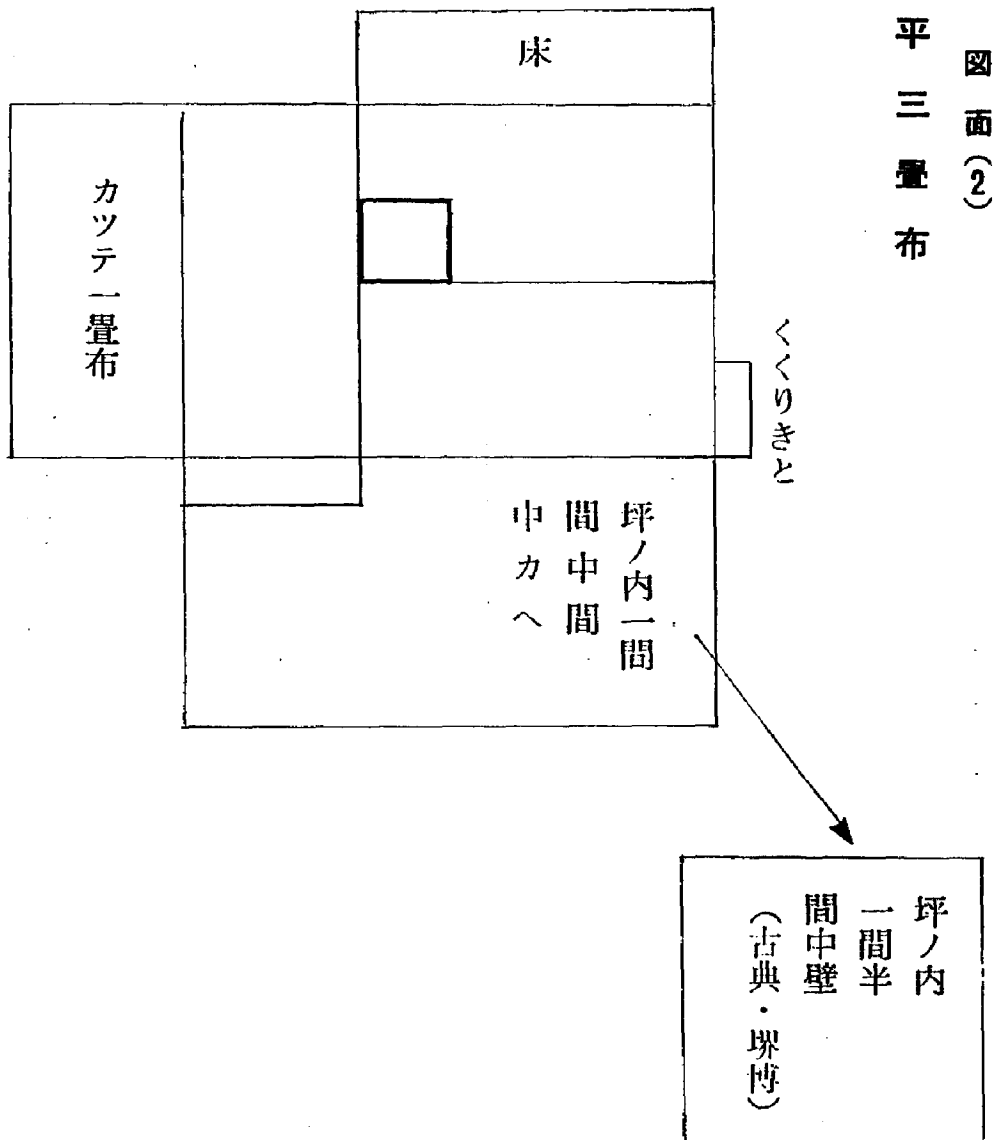
宗達右勝手 道陳モ東向右勝手 何モ道具ニ有子細歟 又臺子ヲスクカ 将又紹鷗之流ハ悉ク左カツテ北向也 但宗易斗ハ南向左カツテヲスク 当時右勝手ヲハ不用ト也 珠光ハ四疊半 引拙ハ六疊布也

右此座布——右此座敷(表・東博・東大)——右此座敷ハ(東芸大) 右ハ(古典・堺博)、紹鷗ノ移也——紹鷗座敷ノ指図也、(古典・堺博)、但——東博にナシ、数多シ——数多有(東大)——多シ(古典・堺博)、柱繪——柱檜(東芸大・東大・古典・堺博)、真ノハリツケ——真ハリ付(堺博)、黒フチ有——黒フチ(東大)——クロフチ也(古典)、横引テ——黄引手(表・東芸大)、四疊半也——四疊半(東芸大)、拙子式迄仕候——拙者式仕候——(東博・東大) 拙子式マテ此座敷ヲ写(古典・堺博)、京堺——堺(東博)、是ヲ移ス——是ヲ写スナリ(古典)——其ヲ写也(堺博)、又珠光——紹鷗(古典)、北向ニ——北向(表・東芸大・古典・堺博)——北向テ(東博)——北ノ向(東大)、松原廣——松ノ林在リ、(古典)、引拙ハ——引拙(古典)、宗達右勝手 道陳モ東向右勝手——道陳ハ東向右勝手 宗達右勝手(表・東芸大)——宗達モ右勝手 道陳ハ東向右勝手(東大・古典)——宗達右勝手 道陳ハ東向右勝手(堺博)、有子細歟——子細在リ(古典・堺博)、スクカ——スク(古典・堺博)、将又——古典・堺博にナシ、但宗易斗ハ——宗易ハ(古典・堺博)、当時——当時ハ(古典・堺博)、右勝手ヲハ不用ト也——右勝手ヲ不用也(古典・堺博)、

図面(2)

三疊布ハ紹鷗代迄ハ無道具ニ住教寄ニ專トス 唐物一種成共持候者ハ





四疊半ニ座布ヲ立ル 宗易異見候 廿五年以来紹鷗之時ニ同 当関白様御代十ヶ年之内 上下悉ク三疊布 二疊半布 二疊布用之 サレ共昔珠光被申候ハワラヤニ名馬ヲ繫タル好ト旧語ニ有時 名物之道具ヲソサウナル座布ニ置タルカ好 当世ノ風鉢 猶以面白敷

紹鷗代迄ハ——紹鷗ノ代迄ハ(表・東芸大・東博)——紹鷗ノ代マテ(古典・堺博)、無ニ道具——無ニ道具ノ(表・東芸大)、佗数寄ニ專トス——佗数奇專也トス(東博)——佗数奇專一ニス(古典・堺博)、唐物一種成共持候者ハ——一種ニテモ唐物所持ノ人ハ(古典・堺博)、四疊半ニ座布ヲ立ル——四疊半ニ作ル(古典・堺博)、宗易異見候——宗易異見アツテ(古典)——宗易異見有テ(堺博)、当関白様御代——当関白様ノ御代(表)——関白様御代ニ当テ(古典・堺博)、上下悉ク——上下トモ(古典)——上下皆(堺博)、二疊半布 二疊布用之——二疊半 ニデウ敷用(東芸大)——半 二疊用之(東博)——二疊半敷ヲ用(古典)——二疊半 二疊敷ヲ用(堺博)、昔珠光被申候ハ——珠光ノ云レシハ(古典・堺博)、名馬ヲ繫タル好ト旧語ニ有時——名馬ヲ繫タルカ好ト旧語ニ有時ハ(表・東芸大)——名馬繫タルカヨシト也、(古典・堺博)、名物之道具ヲソサウナル座布ニ置タルカ好 当世ノ風鉢 猶以面白敷——名物之道具ヲそさうなる座敷ニ置タルハ 当世ノ風鉢 猶以面白敷(表・東芸大)——名物ノ道具ヲソサウナル当世ノ風鉢 猶以面白キ敷 座敷ニ置キタルカヨキ(東博)——然則、麁相ナル座敷ニ名物置タルカ好シ、風體猶以テ面白也、(古典・堺博)

図面 (3)

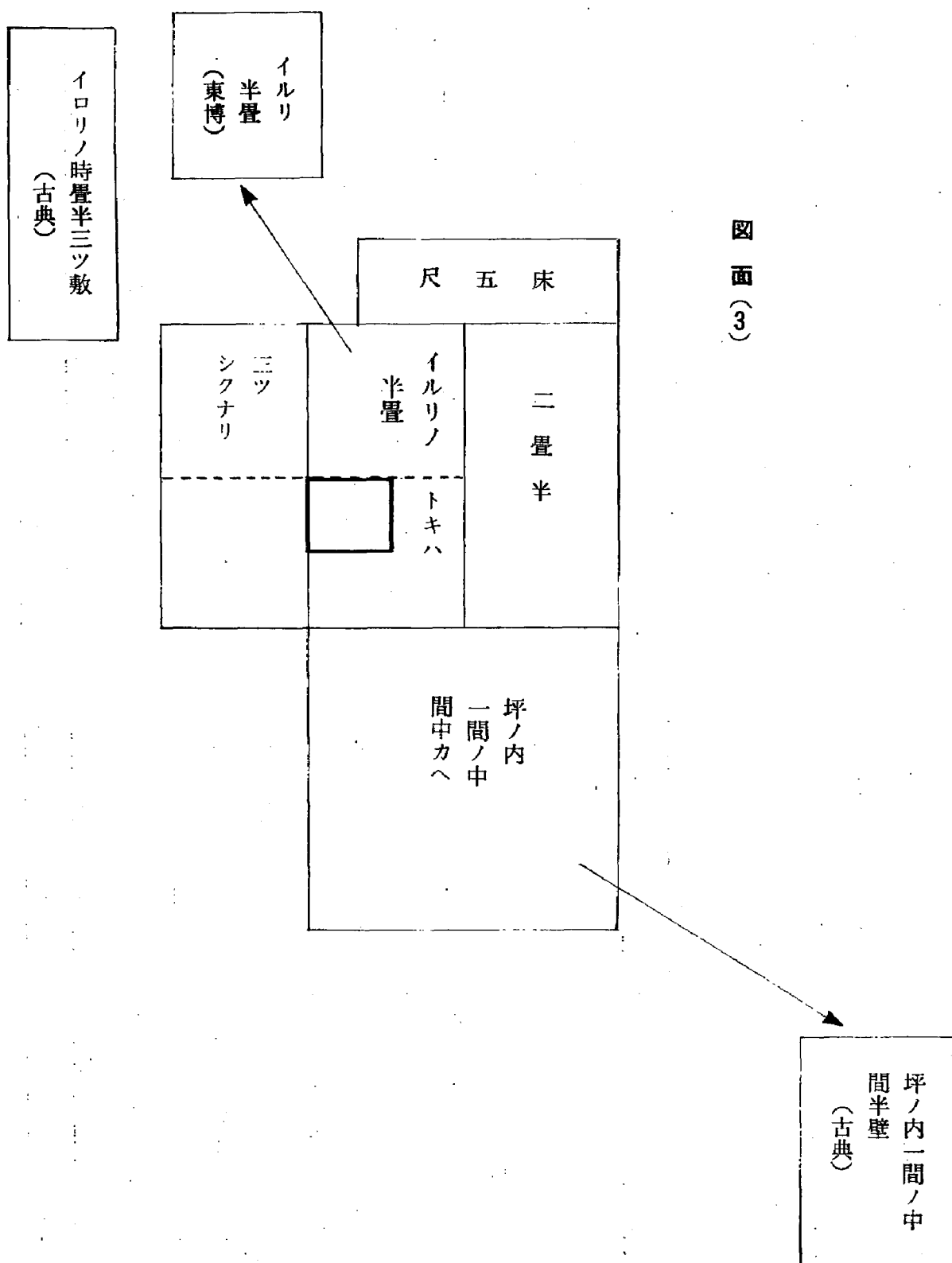
此二疊半之事 紹鷗之時ハ天下ニ一ツ 山本助五郎ト云人 紹鷗ノ一之弟子也 其人ニ好テ茶湯ヲサセラレ佗数寄也 開山ト云蓋置ノ五徳ヲ一種ニ持ツ 但當時此五徳モ 又藤コフノ五徳モ二ツ共ニ不用

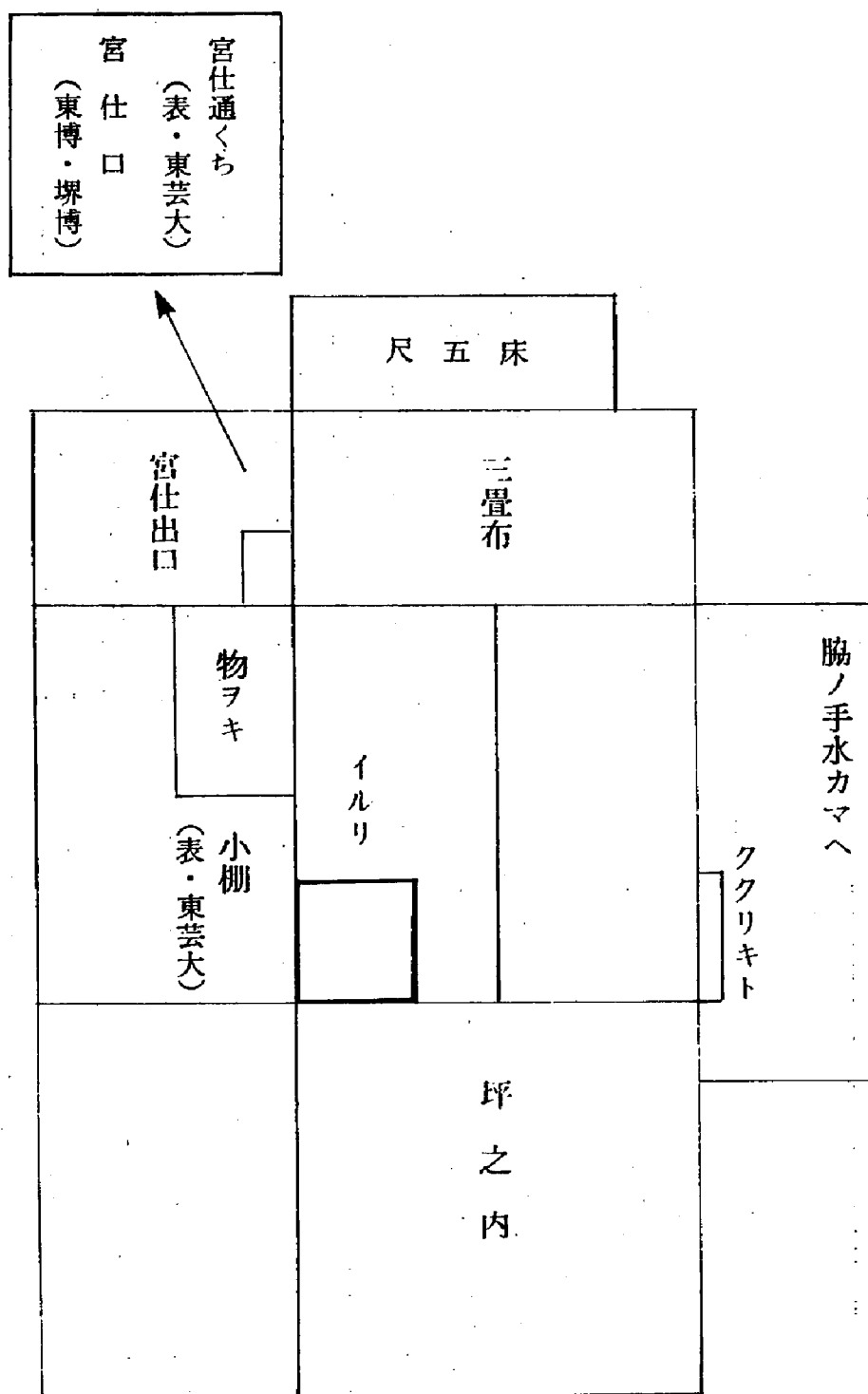
此二疊半之事——此二疊半事(東芸大)——此二疊半ハ、(古典・堺博)、山本助五郎ト云人——山本助五郎ト云人(東博)——山本助五郎ト云シ人(古典・堺博)、紹鷗ノ一之弟子也——紹鷗弟子也(東博)——紹鷗ノ弟子也(古典・堺博)、其人ニ好テ——其人ニ好候テ(表・東芸大)——其人ノタメニ好テ(古典・堺博)、サセラレ——サセラレシ(表・東芸大・東博・堺博)——サセラレシニ(古典)、蓋置ノ五徳ヲ一種ニ持ツ——蓋置(東博)——蓋置ノ五徳ヲ一種ニタノシム(古典・堺博)、但當時——但、當時ハ(古典・堺博)、此五徳モ 又藤コフノ五徳モ二ツ共ニ不用——五徳モ二ツ共ニ不用(東博)

図面 (4)

細長イ三疊布 宗易大坂ノ座布ノ移シ也 但道具持 茶湯ノ功者ハ仕也 佗数寄初心ナル茶湯ニハ無用也

細長イ三疊布——細長イ三疊(東芸大)——細キ三疊敷(古典)——細長キ三疊敷(堺博)、宗易大坂ノ座布ノ移シ也——大坂之座敷也(東芸大)——宗易大坂座敷移シ也(東博)——宗易大坂ニテ作ラレシ指図也、(古典・堺博)、但道具持——但道具(東博)——但、道具持タル人敷(古典・堺博)、茶湯ノ功者ハ仕也——茶湯ノ功者仕也(東博)——茶湯功者ハ可然敷(古典・堺博)、佗数寄初心ナル茶湯ニハ無用也——佗数寄初ナルノ無用(東博)——初心成ル人無用也、(古





図面(4)

典・堺博

図面 (5)

二疊布ノ座布 関白様ニアリ 是ハ貴人カ名人カ 扱ハ一物モ不持侘
数寄敷 此外平人ニハ無用也 又宗易京ニ一疊半ヲ始テ作レ候 当時
珍キ事也 是モ宗易一人之外ハ如何 ロニ如注 孔子曰 及七十從
心處不越法 此語宗易常ニ思イ主ヲ名人ニ教身ニ 山ヲ谷西ヲ東ト
茶湯ニ被ニ法度ニテ 物ヲ自由ニス 但宗易一人ノ事ハ目聞ナルニ依テ
何事モ面白シ 平人宗易ヲ其儘似タラハ邪道ト云々 茶湯ニテハ在間
布者也 但宗易ニ骨ヲ碎身ヲ碎 又ハ金銀ヲ山ト積カ 別而氣ニ入タ
ラハ其上ニテ主ノ年比 主ノ道具ノ様子 其身ニ似セ様々茶湯可為相
傳者也 如此心持チナラハ上手可成事眼前歟

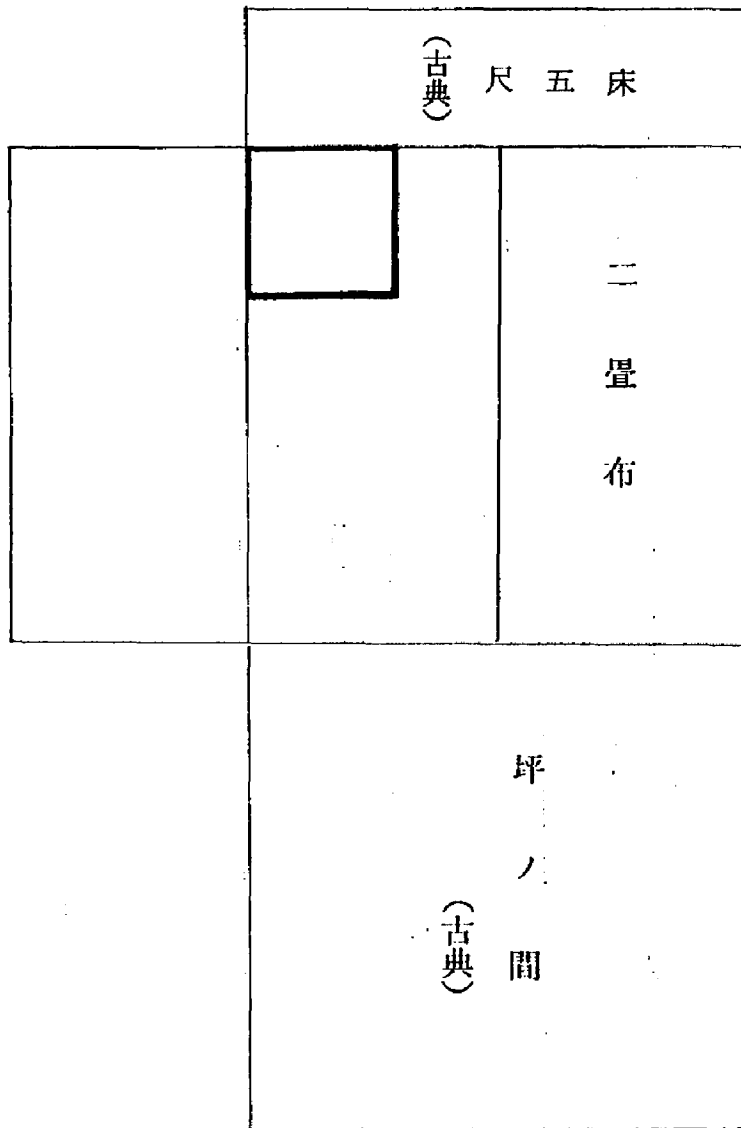
二疊布ノ座布——二疊敷座敷(東博)——二疊敷ノ座(古典)、関白
様ニアリ——古典・堺博にナシ、是ハ貴人カ多人カ——是ハ貴人カ
(東博・古典・堺博)、扱ハ一物モ不持侘数寄敷——又一物モ無侘敷
奇敷(古典・堺博)、此外平人ニハ無用——此外ハ無用(古典)——
此外無用(堺博)、又宗易京ニ一疊半ヲ始テ作レ候——又宗易京ニ
一疊半ノ始テ作レ候(表)——又宗易京ニ一疊半始テ作候(東芸
大)——亦宗易京ニ一疊半ヲ始テ作レ候(東博)——宗易ハ京ニテ
一疊半ヲ始テ作ラレタリ(古典)——宗易ハ京ニテ一疊半始テ作ラ
レタリ(堺博)、当時珍キ事也——当時ハ珍敷ケレトモ(古典)——
当時ハ珍ケレハ(堺博)、是モ宗易一人之外ハ如何——是宗易一人
外ハ如何(東博)——古典・堺博にナシ、ロニ如注……名人ニ教身
ニ——古典・堺博にナシ、尚古典・堺博には「宗易ハ名人ナレハ、」

と記されている、又東芸大には「孔子曰及」ナシ、茶湯ニ被ニ法度ニ
テ——茶湯ノ破ニリ法度ニテ(表・東芸大)——茶湯破法度(東博)
茶湯ノ法ヲ破リ(古典・堺博)、物ヲ自由ニス——物自由ニス(東
博)——自由セラレテモ、面白シ、(古典)——自由ニセラレテ面白
シ(堺博)、但宗易……面白シ——古典・堺博にナシ、平人宗易ヲ
其儘似タラハ邪道ト云々——平人ソレヲ其儘似セタラハ(古典・
堺博)、茶湯ニテハ在間布者也——茶湯ニテ在間敷也(東芸大)——
茶湯ニテ有間敷者也(東博)——茶湯ニテハ在マシキゾ、(古典)——
茶湯テハアラマイソ(堺博)、又ハ——又(古典・堺博)、別而——
別ニ(古典)、主ノ年比 主ノ道具ノ様子——主ノ道具ノ様子共(古
典)——主ノ年比主ノ道、其様子(堺博)、其身ニ似セ様々茶湯可為
相伝者也——身ニ似セ様々茶湯ヲ相伝可在、(古典)——其身ニ似セ
様々茶湯相伝有ヘシ(堺博)、如此心持チナラハ上手可成事眼前歟
——如茲ナラハ上手ニ可成事眼前也、(古典・堺博)、(尚「但宗易……
眼前歟」の部分東芸大は「但宗易ニ致執心候者茶湯可相傳者也
兎角諸色者執心為本意歟」と記している。

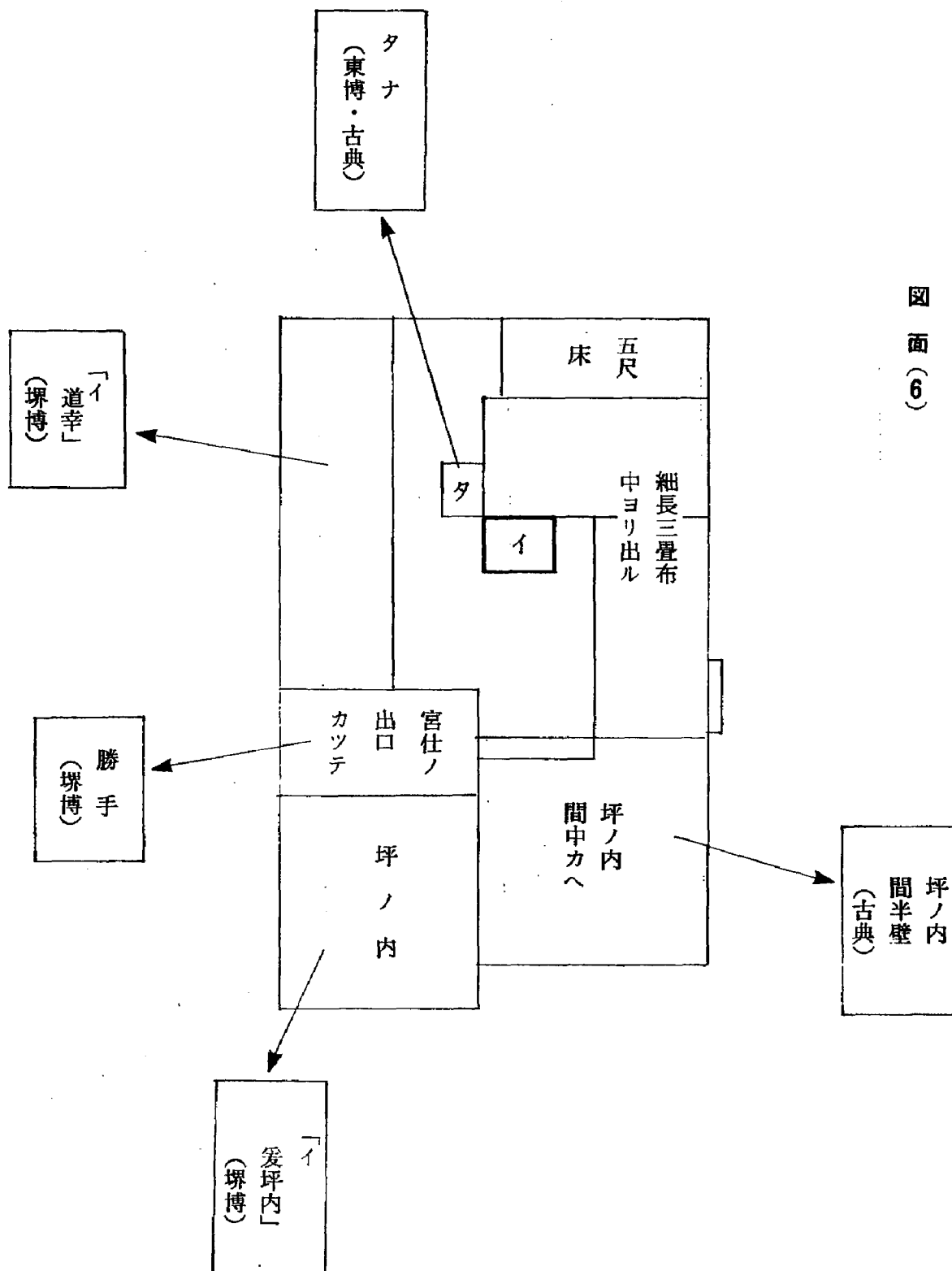
図面 (6)

山上宗二大坂之座布細長イ三疊布也 右座布之指圖六ツ仕候 百ハ百
なからちくく替物也 当世ハ大方此一書ノ通歟

細長イ三疊布也——細長三疊敷也(表・東芸大)、百ハ百なからち
くく替物也——此外作事ハ百ハ百ナカラチクく替物也(表)——
此外作事ハ百ハ百ナカラチクくト替也(東芸大)——此外作事百
ハ百ナカラチリく替ル物也(東博)、(尚この項、古典・堺博は



図面(5)
関白様御座布



図面(6)

「此指圖、山上宗二大坂ニテ作ル細長三疊也、作事ハ百ハ百ナガラ
ニ少々替ル物也、右、六ノ指圖ハ大抵当世也、」と記している。

(林木之事——古典・堺博のみ記す)

一 丸柱女松皮カツキ 同栗ノ木カ

女松皮カツキ——女松ノ皮付敷(古典・堺博)、同栗ノ木カ——栗
ノ皮付敷(古典)——栗敷(堺博)

一 四方物ハ堺ニアル ヒハサスヌケ 杉ケタ

四方物ハ——四方柱(古典)——四方柱ハ(堺博)、堺ニアル——堺
ニ在リ、(古典)

一 床カマチ 京マルタ 檜ノ皮ムキ 床四分一ハ珎ク竹柱スク人モ
アリ オトシカケ杉ケタ

床カマチ——床柱(古典)、オトシカケ杉ケタ——古典・堺博にナシ

一 天井コモノ色付 堺ニアルにカ竹二本ツム 双テウツ 一間間中
ノ間ニ十三通 但廻リフチハ唐竹也 同ク高サ六尺五寸 六寸ノ間数

寄次第 床カまち京マルタ 檜のひんむき

堺ニアルにカ竹二本ツム——堺ニ在リ、蘆竹二本宛(古典)——堺

ニ有カヨシ、蘆竹二本宛(堺博)、一間間中ノ間ニ十三通——一間

半ノ中十三通、(古典・堺博)、同ク高サ六尺五寸 六寸ノ間数寄次
第——同高サ六尺五寸ノ間数寄次第(東博)——古典・堺博にナシ、

床カまち京マルタ 檜のひんむき——東博・古典・堺博にナシ

一 二疊半 平三疊 細長イ三疊布 大形同作也 少ツムカハル事ハ

作次第也 但准ニ會席ニ物ヲ入テをさうニするカ数寄之作事也

二疊半——二疊敷半(古典)、平三疊——平三疊敷(表・東芸大・

東博)——三疊敷(古典)——三疊(堺博)、細長イ三疊布——長三

疊、(古典)——細長三疊(堺博)、大形同作也——大方同作也(表

・東芸大)——大抵同作也(古典・堺博)、少ツムカハル事ハ作次第
也——少宛替ル(古典・堺博)、但准ニ會席ニ——會席ニ准ス(古典)

一 当世ハ唐碗 鉢子 つはめ口の椀 黒椀精進椀 皿モ悉ぬり物つ
かふ也 堺空願 奈良の才次良ニあり

唐碗——唐椀(表・東芸大・東博)——古典・堺博にこの項ナシ、
ぬり物——ぬり物を(表・東芸大・東博)

一 折敷 燕口ノ皆朱本膳 小膳 此外すいもん栗色ノ折布敷色々在
之モ右ノ二家ニ有リ 但シ数寄ノと申ナから 椀 折布ハ新キカ

賞翫也 貴人ヘハ木具可然 付箸京ノ白箸 楊枝柳 次ニ小板ハ空願
ニ有リ

小膳——東博にナシ、尚古典・堺博にこの項ナシ、右ノ二家ニ——
右ノ二間ニ(表・東芸大)——二家ニ(東博)、小板ハ——小板モ

(表・東芸大)

一 茶湯之小道具 自在 柄杓兩種 堺養泉坊ニ有リ 京にてハ作雲
柄杓吉 同代

養泉坊——養泉房(東博)、柄杓吉 同代——柄杓吉代同(東芸大)

一 真手桶ナツメ兩種 盛阿弥ニ在

京天下一——京ノ天下一(東博)

一 天下ノ茶桶 下京藤意ニアリ ナリ 比 宗易ノ流

天下ノ茶桶——天下一ノ茶桶(表・東芸大・東博)

一 奈良風爐 西京宗四郎ニ在 五徳奈良ノ天下一休息ニ

休息ニ——休息ニ在(表・東芸大・東博、尚東博は「五徳……」を別項にしている)

茶杓 慶首座ノ流 堺今市ニアリ 井面桶
慶首座ノ流——慶首座のなかれ(表・東芸大)——慶首座(東博)、井面桶——表・東芸大は「堺今市ニアリ……」次項「つるへ」に入れている

つるへ 堺市町ニアリ

(表・東芸大は「堺今市ニアリ 井面桶 堺市町ニアリ」と記している)

鉤^{ツル} 火筋 今市弥助

鉤^{ツル}——鉤火筋(東芸大)、今市弥助——二種今市弥助(東芸大)

大形如此歟